

2025年8月28日(木) ①10:30 ②14:00 (各回30分前開場)

茨木市市民総合センター クリエイトセンター・センターホール

精一杯の愛でした。

その手紙は、

35年目のラブレター

笑福亭鶴瓶 原田知世

重岡大毅 上白石萌音

監督・脚本 塚本連平

心温まる感動の実話

読み書きできない夫と幸せを教えてくれた妻が歩んだ人生



寄り添い、支え合つて生きてきた35年。
最愛の妻へこれまでの感謝を込めて、この“ラブレター”を贈る――

結婚35年

2007

出会い

1972

「君は、僕と結婚して、幸せでしたか？」

Story

西畠保、65歳。文字の読み書きができない。そんな彼の側にはいつも最愛の妻・皎子^{あきこ}がいた。

保は貧しい家に生まれ、ほとんど学校へ通えず大人になった。生きづらい日々を過ごしてきたが、皎子と運命的に出会い、めでたく結婚。しかし、その手放したくない幸せ故に保は読み書きができないことを言い出せずにいた。半年後、ついにひた隠しにしてきた秘密が露見し別れを覚悟する保だったが、皎子は保の手をとりながらこう告げた。

「今日から私があなたの手になる」

その言葉に、その眼差しに、保は救われた。

どんな時も寄り添い支えてくれた皎子へ感謝のラブレターを書きたい。定年退職を機に保は一大決心し夜間中学に通い始める。担任の谷山恵先生のじっくりと粘り強い教えや年齢・国籍も異なる同級生たちと共に学ぶ日々で少しづつ文字を覚えていく保。だが老齢のため物覚えも悪く、気付けば5年以上の月日が経過した頃、一字また一字と書いては消しました書くひたむきな保と、それを見るともなく見守る皎子は結婚35年目を迎えていた。

変わらない日常がいつまでも続くと思っていた。なかなか書き上げられずにいたラブレターがようやく形になろうとしていた頃、皎子が病魔におかされて……。

2025年8月28日(木) ①10:30 ②14:00

(上映時間120分) 日本語字幕付き

※今回から夜間の上映はございません

【全席自由】1,000円（大阪映画センター会員：900円）

※就学前のお子様はご遠慮ください　※残席がある場合、各回30分前から当日券を販売します。

◆チケットのお取扱い・お問合せ [2025年6月17日(火)予約開始]

※発売初日は電話予約のみ。チケットの引取、窓口販売は発売翌日から。

(公財)茨木市文化振興財団・文化事業係 ☎072-625-3055(10:00~17:00)

○クリエイトセンター1階チケットカウンター(10:00~17:00)

◆主催・お問合せ 株式会社大阪映画センター ☎06-6718-4755

茨木市駅前四丁目6番16号／072-624-1726